参考資料１

第１回教育振興基本計画部会（令和８年 10 月 19 日）における主な御意見

（計画策定の基本的な考え方）

・社会の在り様が加速度的に変容し、先行き不透明な AI 時代を迎える中で、2040 年以降の社会を捉え直し、歴史の転換点に立っているという認識の下、これまでの枠にとらわれることなく、これからの教育の在り方について大きな視点から議論していく必要。我が国の教育政策の羅針盤となる計画を示したい。
・第５期計画は、教育の前提そのものを問い直し、次の時代の基盤をつくる５年間として考えていくことが必要ではないか。
・人生 100 年時代、持続可能な社会の基盤づくりなど、教育の営みを通してこの社会をどう創っていくのかという視点で議論ができるとよい。
・子供たちが希望ある未来を描くことのできる、前向きな計画とすべき。
・子供を支援の対象としてだけではなく、自らの意見を表明し、学びの在り方や学校・地域の意思決定にも参画する主体として捉える必要がある。
・第４期計画の進捗状況からすると、現在の教育システムが十分に成果を上げているのか改めて検証する必要。対症療法にとどまらず、本質的な原因にまで踏み込んだ議論が必要。
・第４期計画で掲げた「持続可能な社会の創り手の育成」に向け 16 の目標をどう構造化していくか、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に向け、一人一人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングをどう実現するか、深めるべき。

（教育の本質・公教育の役割）

・「人格の完成」など、時代が変わっても不変の教育基本法の基本理念を改めて押さえておく必要がある。
・教育と学びという人間社会の営みから問題を考察していく必要。「教育とは何か」「学校とは何か」という根本的な問いに立ち返りつつ、議論する必要がある。
・学校制度については、既存制度（例えば６・３・３・４制）の柔軟化や各段階の接続の在り方も考えていく必要。技術・職業教育を通じた人間形成の観点から、高等専門学校、専修学校、専門職大学、大学校等も含め考えることが大切である一方で、その機能分化が学歴・偏差値秩序の再強化とならないよう格段の配慮が必要。
・教育を受ける権利を保障することで、子供たちが「何があってもやっていける」という確信を持てるようにすることを見据えるべき。どういう状況にあっても、自ら道を切り拓くためのサバイバルツールを身に付けられるようにしたい。
・少子化社会だからこそ教育が重要であり、知の拠点が必要。AI 時代のサバイバルツールとして、人としての心と技の力が重要。
・一人一人の能力向上だけでなく、課題や道具、他者、制度、環境との関係をよりよく組替え、一人一人が学び、参加し、行動できる可能性を広げることも教育の役割。

（変化の激しい時代への対応、学びの連続性と学び続ける社会）

・教育には、変化に対応するだけでなく、自ら社会に新たな変化を生み出し、創造していく力を育む役割も求められる。
・社会の変化に適応できる人材を育てるだけではなく、他者と共に問い、考え、判断・説明し、必要に応じて社会や制度そのものを変えていく力を育むことが重要。
・他者や社会との関わりを通じた探究的な学びを重視し、子供たちが未来を主体的に創造する力を育んでいくことが重要。子供たちが自ら考え、行動し、社会の形成に主体的に参画できる力を育むことを今後とも継続すべき。
・子供たち自身の自己決定と環境決定は地続きのものとして考えていく必要。話合いや対話の重要性という点では、対話を通じて子供たち自身の意見が変わり、新たな考えが生まれる経験が大事。
・小中高大と続く学びの連続性を子供がイメージできることが大切。
・社会が大きく変化する中で、他者との信頼関係を構築する力の重要性が一層高まる。少子化の中で、信頼関係構築の前に競争を煽り、一度の試験で合否を決めるような受験の仕組みは見直しが必要ではないか。
・技術革新、産業構造の変化に伴い職業に求められる能力が変化していく中、誰もが必要なときに学び直して新たな可能性に挑戦できる社会の実現が重要。
・人口減少社会において学校種ごとの競争という発想でなく、多様な学びの経路を社会全体としてどう設計していくのかという視点が重要。入口だけでなく進路変更や学び直しを当たり前に行える仕組みや、何度でも挑戦し、やり直しもできる社会を実現することが重要。
・家庭教育、初等中等教育、高等教育、社会教育を縦割りで捉えるのではなく、世代を超えて学び合う「学びのエコシステム」を構築する必要がある。
・学校教育と社会教育の在り方やその境界を問い直し、子供も大人も共に学び、社会の創り手となる生涯学習社会を実現することが重要。
・学校教育と社会教育の連携・協働を支える仕組みとして、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を更に充実させ、学校と地域、子供たちが学びの目標や在り方を共に考え、創っていく関係へと発展させることが重要。

（AI 時代の学びと教育）

・現に生成 AI を利用する中高生が増加しており、AI 活用リテラシーの育成は喫緊の課題、第５期計画を待たず、できる限り先取りして対応すべき。その上で、AI 技術や教育用 AI の進展を前提として、AI に任せる部分と教員が担うべき部分の整理を含め、教育の質の向上をどのように実現するか議論する必要がある。
・AI があらゆる職業に浸透していく中で、「職業×AI」という視点から、それぞれの専門分野において AI を適切に活用できる職業教育が不可欠。その際、批判的な視点を持って自ら考え判断する力の育成や、情報セキュリティ・情報倫理に関する教育も重要。
・AI 時代だからこそ、デジタルの恩恵を生かしつつ、リアルな体験や他者との対話を

通じた、民主主義社会を担う人間としての感性や倫理感を磨く学びが重要。
・AI 時代だからこそ、個別最適な学びだけでなく、協働的に課題解決していくことの価値を重視すべき。自ら学ぼうとする意欲や粘り強さ、自分の感情を調整する力、他者と協働して対立や失敗を乗り越える力を学校教育の中で意図的に育む必要。非認知能力や社会性の育成を教育課程全体に位置付ける必要がある。
・AI 等のデジタル活用を推進するのと並行して、地域への理解と愛着を育むキャリア教育など、五感を使ったリアルな体験との融合を重視すべき。

（人口減少に対応した教育システム）
・社会の変化に応じた教育の実現のため教育とその先の社会との接続が重要であり、地域や産業界との連携を通じた人材育成が必要。外部人材の活用を含め外部との連携は、計画の実効性向上のための人的資源の確保ともなる。
・高校魅力化・地域コンソーシアムの取組など、人口減少下の教育政策は、地域社会の再構築や地域創生と密接不可分である。
・地域における高等教育へのアクセスの維持は重要な課題。大学は地域インフラであり、大学がなくなることはその地域はもとより国全体の力の低下につながる。
・子供・若者が生まれ育った地域で豊かな学びを継続できるよう、学校教育と社会教育の接続はもちろん、個々の教育機関の質向上の後押し、社会システムとしての教育へのアクセス確保を検討していく必要。

（多様性の包摂、教育の機会均等）
・子供の状況、学びのニーズが多様化する中で、全ての子供が安心して学び、自分らしく成長できるよう、学校内外の多様な学びの場・選択肢を保障することが重要。
・一人一人の多様性を前提とした教育システムの構築が重要。
・学校そのものが、多様な子供の生存権と学びの権利を保障し、多様性を尊重する共生社会となることが重要。そのため、学校教育では、公正で民主的な社会の主体となる力を授業内外の学びと経験を通していかに育むかが大事。

（ウェルビーイング）
・次代の学びを考えていく上では、AI 時代だから AI 活用のリテラシーをというだけでなく、人間としての成長やウェルビーイングの視点から議論すべき。

（推進体制、人的・物的資源の確保等）
・情報活用能力の抜本的向上に向けて、次期学習指導要領の着実な実施と、それを支える人的・物的基盤整備が重要。自治体規模や教育行政体制の違いによって生じる差を考慮した支援が必要。
・教師の質が学校教育の質を左右する。学び続ける教師を支える国、都道府県・市町村教育委員会の役割分担と力強い支援が必要。
・文部科学省と他省庁、教育委員会と首長部局、住民同士の連携により計画の実効性を高める方向性で議論できるとよい。